

留学報告書

～Choose901-Memphis～

メンフィス大学
外国語学部生（中期）

まず初めに、今回私が強く希望したメンフィス大学へ派遣していただき本当にありがとうございました。メンフィス大学への留学は、初めての海外ということもあり、4か月だけでしたがすべてのことが新鮮で、たくさんを経験することができました。私の人生にとって財産といえる日々になったことは間違いないです。そして今、留学が終わり、「これ以上の留学はない」と言えるほど充実した留学でした。そんな留学がどのような日々だったのかを報告していきたいと思います。

[メンフィス大学]

メンフィス大学はとても大きく、寮によっては部屋から教室まで歩いて10分以上かかったりもします。そのためキャンパス内には、普通に道路や信号機などがあって、バスが走っています。毎週木曜と金曜には近くのクローガー（スーパー）とターゲットまで送迎もしてくれます。私は、大学内でスケボー移動するのが小さな夢だったので、ウォルマートという大きめのスーパーで3000円のシャークボードを買ってそれでキャンパス内を移動していました。メンフィス大学は本当に大きな大学なので、どこからどこまでが大学の境目か分かりませんでした。次にメンフィス大学といえばフットボールです。メンフィス大学は、非常に強くアメリカのサウスチャンピオンにもなりました。キャンパスの近くには、巨大なスタジアムがあり、二週間に一回くらいのペースで試合があります。あんなに立派なスタジアムを持っている大学は少ないと聞きました。ゲーム日には、キックオフ3時間前から地域の人たちがスタジアムの外でブースを開きお祭り騒ぎみたいになっています。ある日の来場客数は、東京ドームのキャパシティを超える学生と街の人が集まり、こんなにも自分たちの大学チームを応援していることに感動しました。あの雰囲気がとても恋しいです。

[留学前]

私は、メンフィスに行く前にハワイ、ロサンゼルス、サンマルコス、サンディエゴに行っただのですが、それらは簡単に述べようと思います。ハワイでは、3つのビーチでサンセット、早朝にダイヤモンドヘッドに登山をしてサンライズ、偶然映画撮影している現場も見ました。ロサンゼルスでは、ラ・ラ・ランドの舞台となったグリフィス天文台、Hollywoodの看板を見に行きました。ロサンゼルスにはいたるところにwall artがあり、歩いているだけで楽しめる場所だと思いました。そして、なにより天候が最高で、雲一つない空が毎

日広がっていたのを覚えています。サンマルコスでは、私の中高時代の友達の家遊びに行き、サンディエゴでは夜景を見ました。街から光が溢れるほどキラキラしていました。

[メンフィスに着いてからの一週間]

日本を出発する前に、メンフィスに着いてから一週間は「食料を買わなくていいよ」と友達から言われていて、私はほとんど信じていなかったのですが、それは事実でした。なぜならイベントが盛りだくさんだったからです。初日からランチにフリーピザ、夕方にプールパーティーでフリーピザ、夜に外でアベンジャーズを巨大スクリーンで見ながらフリースナック。このようにメンフィス大学ではイベントごとにフリーでご飯が食べられたり、サングラスなどのグッズ、フリーTシャツが貰えたりします。私は最初の一週間はフリーTシャツを集めるのに全力を尽くしていました。(笑) その結果10枚ゲットでき宝物になっています。そして、毎日あるイベントの中で、「中学生の時から憧れていたアメリカに来たな。トータル頑張って良かった。」と強く実感した瞬間がありました。それは、初めて大学のマーチングバンドのパフォーマンスを見た時です。それは、体に響くほどの音量、その演奏に合わせて踊るチアや一般学生、その場の雰囲気も含め全て最高で本当に感動して涙が出そうでした。

[授業]

私は、IEI という、他国からの留学生と「英語」を学ぶクラスを取っていました。レベルが3個あり、私は真ん中のレベルでリーディング&ライティング、文法、コミュニケーション、そして、秋学期の後半には発音のクラスも取りました。授業内容は、とても難しいことはなかったです。クラスメイトには、コロンビア、ベネズエラ、セネガル、韓国、ヨルダンからの留学生がいました。彼らの話す英語の発音に母国語の影響で癖があるなど各国、英語の違いがあっただけおもしろかったです。そして、何よりも違いを感じたことは、積極性です。私も積極性をはじめ、彼らから学ぶことは多くあったと思います。最後に宿題ですが、全ての授業から毎日宿題がでます。しかし、多くはないので授業後にスターバックスに行っただけでやっていました。毎日そこに行くことで友達もできました。

[私生活]

私の、私生活を一言で表すと「多忙」です。基本の授業後スケジュールを書きたいと思います。月曜、スタバで宿題→フリーディナー→友達の家に行く。火曜、スタバ→ズンバ(ダンス)→友達の家。水曜、スタバ→友達の家。木曜、スタバ→友達の家でパーティー。金曜、授業後ジム2時間→サッカー2時間→バレー2時間→友達の家。土曜、アメフトの試合観戦→バーに行く。日曜、友達と一日中何かをする。こんな感じで一日中外にいて自分の部屋にいる時間は夜ご飯を食べるときか、寝るときだけでした。私がこんなにも部屋にいなかった

のは、友達によく遊びに誘われたっていうのもありましたが、自分からとにかく人とふれあえる環境や、英語の聞こえる環境に身を置こうとしていたからです。

[カルチャーショック]

アメリカで驚いたことは、数えきれないほどありました。言ってしまうと、ほとんどのことが驚きでしたが、、最初のカルチャーショックは、食品や売り物の大きさです。到着日に初めてスーパーに行ったとき、見える物すべてが大きくおもしろいものばかりで、ただのスーパーにもかかわらず心がワクワクし、子どもに戻った感覚になりました。そして、一番印象に強いのがメンフィスの人たちは、とにかくフレンドリーだということです。欧米人と聞けばフレンドリーだろうと想像やイメージができると思いますが、その想像やイメージをはるかに超えるフレンドリーさで、例えば、全然知らない人でも私に「I like your haircut」や「I like your skateboard」など言ってきたりしました。なので、私も時々知らない人にもそのようなことを言うようになっていました。また、メンフィスの人は本当にパーティーが大好きで毎週誘われました。最終的に、彼らの人柄のおかげで留学が終わったときには、友達が120人以上できていて驚きました。他には、あるレストランに行った時、店員さんが料理を派手に落としてしまったのですが、その次の瞬間に店の中から拍手が沸き起こりました。この時、アメリカってなんてあたたかく素晴らしい国なんだと改めて気づかされました。

「まとめ」

このアメリカで過ごした4か月で多くのことを学び、感じました。それはどれも実際に現地学生のように生活することでしか経験できない事ばかりでした。また、アメリカには様々な人種の人がいるためか一人一人個性があり、周りを気にすることなく生活する姿を見て、以前よりも自分らしくいられるようになりました。そして、留学を通して日本とアメリカの違いをひしひしと感じ、日本がアメリカらしさをもっと見習うべきところもあれば、日本がどれほど恵まれた国であるか、日本の文化にブランドのような価値があることに気がつき日本人であることを誇りに思うようになりました。

最後に、私が留学できたのは、二年間あきらめずに勉強したからでもあります。本当はその頑張りをサポートしてくれた多くの先輩方、友達、快く行かせてくれた親のおかげでした。本当に感謝しています。そして、メンフィスで私に声をかけて友達になってくれた彼らが私の留学を最高にしてくれました。私の人生でかけがえのない存在です。この留学の経験をこれからの人生に活かしていこうと思います。